

JR東日本グループは、社会の一員として地域・国際社会との交流に努めています。駅に各種行政施設などを併設するなど、駅を地域のコミュニティセンターや地域情報発信の拠点とする取り組みをすすめています。また、福祉、文化、スポーツ振興、国際協力を通じて、さまざまな社会貢献活動を行っています。

JR東日本グループの地域・国際社会との交流

駅型保育園で育児をサポート

地域の皆さまのために「駅型保育」を積極的にすすめています。1996年に国分寺にモデル園を開園して以来、2002年度までに、横浜市の鶴見と小机、東京都の北千住と西八王子、大森、福生、仙台市の仙台的各駅で8園（定員合計約400人）を開園（所）しました。いずれも、信頼のおける保育事業者を運営パートナーにし、駅周辺に場所を確保して保育するしくみです。

駅型保育園は、駅という立地、アクセスのよさを活かし、働きながら子育てをしている方を支援する保育時間、保育サービスを提供しています。通勤途中に送迎する場合は、駅型でない場合と比べて通勤経路が短くなり、父親による送迎もしやすくなります。実際、ご利用者の約



JR東日本のトッププライオリティである「安心」「安全」を徹底しています。Jキッズ・プラネットJR鶴見保育園(横浜市)

9割が朝預けた後、そのまま勤務先に向かっていくというデータもあります。また、送迎ついでに駅周辺で買い物ができるという点も喜ばれています。

2003年度からは、埼京線沿線3駅において、地域での子育て相談や、お年寄りや小学生との合同行事など共働き家族のみならず子育てをしている全ての方を支援する地域に開かれた新しい駅型保育園の整備を始めます。計画では、2004年度の開園をめざしています。

駅に近いという利便性だけでなく多様なニーズにお応えしています

横浜市は全国で2番目に保育園の待機児童数が多い自治体です。それだけ保護者のニーズも高いところなので、預かる時間も7時から21時までにし、土日や祝日も受け入れる態勢にしています。開園3年目、園児数は順調に増えました。

この間、同じJR東日本グループの駅型保育園の園長たちと運営について会合を持ち、保育マニュアルを整備してきました。手づくりの給食は食材から自分たちで選ぶなど、質の高い保育を心がけています。長時間、お預かりするわけですから、園児との信頼関係も重要となります。一人ひとりを大切に、1日の様子、例えば「つか

Jキッズ・プラネットJR
鶴見保育園
園長・看護師
吉岡 桂子さん



「子どもたちから幸せをいただいている毎日です。丈夫な体づくりという保育方針について、35年間、看護師を勤めた視点から、安全・衛生・健康面で管理を徹底しています」

まり立ちで2歩あるいた」など詳細な出来事を連絡帳に記録して保護者に伝えていきます。また、園の運営にあたっては、鶴見駅の駅長さんや地元の方々にも加わってもらっています。園児の絵を電車内に展示する企画など、いろいろ協力していただき、みんなで育てているという感じですが、保護者からもとても喜ばれています。

介護事業でも地元貢献

JR東日本グループでは、2000年度から仙台市内で介護事業に参入しています。東北総合サービス㈱は、JR東日本東北介護サービスセンターを設置し、居宅介護事業を提供しています。訪問介護や福祉用具の貸与・販売など、現在は仙台市内を対象としたサービスで、地元の方に好評です。

また、JR仙台病院に併設された介護老人保健施設「ハート五橋」では、家庭復帰の支援として、要介護認定を受けた方を対象にリハビリや食事、入浴などの質の高い医療・介護サービスを実施しています。いずれも2002年度の利用者数は対前年度比150%と急激な伸びをみせています。

一方、東京都大田区では、㈱日本レストランエンタプライズが、有料老人ホームの2004年開業をめざし、整備をすすめています。



JR東日本東北介護サービスセンター



2004年開業予定の有料老人ホーム「NRE大森弥生ハイツ」(仮称)

地域活性化への取り組み

JR東日本では、駅を単なる「旅の発着点」ではなく、多くの人が集う情報と文化の発信基地とすることで、地元の活性化に果たす役割が大きいと考えています。公民館や図書館など公共施設を併設した駅舎や、自治体による駅周辺の整備計画にあわせて駅の改良工事を行うケースも、地域活性化を考えた具体的な事例です。



コミュニティセンターを併設した左沢線「寒河江駅」

鉄道少年団への活動支援

1960年から各地で結成された鉄道少年団は、青少年の交通徳の高揚を目的に、駅の清掃活動や各種鉄道施設の見学などを行っています。(財)交通徳協会によって運営されていますが、JR東日本では、支社内などに鉄道少年団の事務局を設置。運転シミュレーターなど活動の場を提供し、積極的に支援しています。



JR東日本では「鉄道少年団」の活動計画なども作成しています

丸ノ内駅舎が国の重要文化財に指定

「赤レンガ駅舎」として知られる東京駅丸ノ内駅舎が2003年5月、国の重要文化財に指定されました。1914年(大正3年)に開業したものの、1945年の戦災で3階部分を焼失しています。建物の維持・保存に努める一方、開業当時の3階建に復元するため、現在調査中です。



わが国の明治・大正時代を代表する建造物のひとつです(復元後の丸ノ内駅舎イメージ)

スポーツ大会の開催・後援

JR東日本エリア内の少年剣士を対象に、日ごろの鍛錬の成果を発揮する場として「JR東日本ジュニア剣道大会」を開催しています。2003年8月の大会で14回を数えます。

また、ガーラ湯沢スキー場でのスキー大会や関東大学サッカーリーグなどに協賛しています。



「JR東日本ジュニア剣道大会」は各地の少年剣士の交流にも貢献しています

旅のプレゼント

JR東日本では、日ごろ旅行に出かける機会の少ないハンディキャップを持つ方々へ、北海道の旅を楽しんでいただく「旅のプレゼント」を後援しています。旅のプレゼント実行委員会が1994年から毎年実施しているもので、専用ブルートレインを利用。これまでに約6,000人の方々にご参加いただきました。

海外企業との協力協定

JR東日本は、1992年11月にドイツ鉄道、1995年9月にイタリア鉄道、同11月にはフランス国鉄と、それぞれ協力協定を締結しました。協定は、技術開発や経営情報の交換、駅舎・車両のデザイン開発、メンテナンス、旅客サービス、人材育成など、幅広い分野での協力を目的に掲げています。

国際協力 / 社員の派遣

国際社会への貢献・協力の一環として、海外へ社員を派遣したり、国際協力事業団(JICA)などの依頼で、アジア、東欧、ロシアなど世界各国の鉄道から研修生を受け入れて、講義・視察・実習などを中心とした積極的な国際協力を展開しています。2002年度は、計5人を派遣し、226人を受け入れました。

国際協力の2002年度実績

派遣	短期(1年未満)	2カ国 5名
受け入れ	国際協力事業団(JICA)研修員	39カ国 226人

東日本鉄道文化財団の活動

活動とその目的

東日本鉄道文化財団¹は1992年3月、人間性豊かな鉄道文化、交通文化の醸成に寄与することを目的に設立されました。「鉄道を通じた地域文化の振興」「鉄道に関する調査・研究の促進」「鉄道に関わる国際交流の推進」が、活動の3本柱です。

東京ステーションギャラリーにおける展覧会の開催

駅を誇り高い文化の場として皆さまに提供したいという願いから東京ステーションギャラリーが誕生したのは1988年。以来、「小さくとも本格的な美術館」をモットーに、絵画から建築まで、多くの展覧会を定期的に催しています。

東京ステーションギャラリー 2003年度展覧会

2003年度展覧会名	期間
安藤忠雄建築展2003	4月5日(土)~5月25日(日)
イ・クトゥット・ブディアナ展	6月7日(土)~7月21日(月・祝)
鉄道と絵画展	8月2日(土)~9月15日(月・祝)
浮世絵にみるアヴァンギャルドと現代展	9月27日(土)~11月9日(日)
山口薫展	11月22日(土)~1月25日(日)
香月泰男展	2月7日(土)~3月28日(日)



さまざまなジャンルの展覧会を開いている東京ステーションギャラリー

地方文化の助成支援

東日本各地に残る伝統文化を継承し、地域文化の振興を図るため、1993年度から助成を行っています。2002年度は12件、計5,605万円の助成をしました。



2002年度に助成を行った新潟県柏崎市の「綾子舞」

鉄道に関する調査研究の促進

交通関係の調査・研究の活性化や、若手研究者の育成を目的に、鉄道に関する独創的な学術調査・研究への助成を行っています。

旧新橋停車場跡の保存・復元

日本の鉄道発祥の地として国の史跡にもなっている「旧新橋停車場跡」に、1872年開業当時の駅舎を再現した建物が2003年4月にオープンしました。当時の資料をもとに同じ場所で忠実に再現したもので、内部には鉄道歴史展示室やレストラン「グランカフェ新橋ミクニ」も設けています。



当時の駅舎基礎石遺構を見ることが出来ます。ホームと軌道の一部も再現しています

英文交通評論誌『JRTR』

鉄道を中心とした日本の交通事情を海外に伝えるとともに、世界の有識者が交通問題に関する意見を交換する「国際的な討議の場」を提供する目的で、英文の交通情報・評論誌を月刊で発行しています。インターネット上でも公開しています。



JRTRホームページ
<http://www.jrtr.net/>

国際協力 / 海外鉄道研修生の受け入れ

タイやマレーシア、ベトナム、モンゴル、インドネシアの各鉄道から、若手幹部職員を招聘し、約4カ月間、鉄道経営や技術を学ぶ企業研修「JR East フェローシップ」を実施しています。このほか、中国鉄道部からの研修グループも受け入れています。

研修生の受け入れ実績

年度	JR East フェローシップ	中堅幹部研修	中国鉄道部研修
1998	4カ国 7名	-	34名
1999	4カ国 8名	-	13名
2000	4カ国 8名	-	35名
2001	5カ国 10名	5カ国 10名	22名
2002	5カ国 8名	5カ国 10名	22名

¹ 東日本鉄道文化財団
<http://www.ejrcf.or.jp/>
☎03-5334-0623